

# 動物とのかかわりの向こうにみるもの、みえるもの



ペットを飼育し始めると家族間に会話が増え、子どもはペットの世話を通して自信を持つことができます。ペット飼育の利点は、このような心理的な癒しの側面だけではありません。世話でペットにさわるとき、子どもは自分やペットが怪我しないように、ペットの様子を観察しなければなりません。自分の好きなように行動をコントロールできないペットを世話することで観察力も身に付き、相手のことを配慮する気持ちも涵養されます。このように、ペットの存在は知識や技術そして社会性の向上においても効果を生み出します。ただし、このような効果を得るには、大人による適切なサポートが前提であり、そのサポートの必要性こそが子どもに生き物を活用する大きな理由なのです。

毎日の世話を通した動物とのかかわりが、子どもと動物の信頼関係を作ります。子どもをサポートする大人は、常に動物への配慮だけでなく、子どもにとって作業が安全なように、やりやすいように意識します。それは、子どもとサポートする大人との関係構築にも寄与します。

私たちは動物飼育を出発点に人や社会に眼を向け、互いに暮らしやすい生活を構築するための生き物の活用技術を追究します。



大人のサポートは児童の動物への配慮を涵養します